

(学年) 第3学年、(教科・科目) 道徳科

協働学習

(主題) 互いの立場や考えを尊重し、謙虚に学び合う

(内容項目) 相互理解、寛容

(教材名) 『山寺のびわの実』

(本時のねらい)

生徒たちは3年間をともに過ごすことで、時間をかけて相互理解を深めてきた。その一方で、人間関係が徐々に固定化され、一度疎遠になってしまった相手とは関係性を修復できないケースも散見されるようになった。そこで本主題では、凝り固まってしまった他者への認識をほぐし、改めて互いの個性や立場を尊重しようとする態度を育てることをねらいとした。

(ICT活用方法)

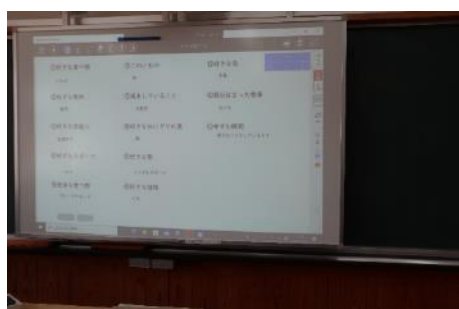
固定化された人間関係や他者への認識をほぐすために、導入としてクラスメイトと出会い直すようなレクリエーションを行った。具体的には、生徒それぞれが授業支援クラウドアプリ上でいくつかの質問項目に答え、回答を匿名で電子黒板に写し出し、誰の回答か当てる、という形式をとった。こうした活動は従来、集約と提示に時間がかかり、授業に取り入れづらかったが、一人一台端末と電子黒板の導入により、授業の一部として短時間で実施できるようになった。

(本時の展開)

時間	学習活動	指導事項	ICT活用方法
導入① 5分	・本時のねらいを確認する。	・本時のねらいについて説明する。	
導入② 20分	・授業支援クラウドアプリ上に配布されたワークシートの質問に答える。  ・質問への回答から、それが誰のものか当てる。	・質問用紙を授業支援クラウドアプリ上に配布する。  ・生徒の回答を集約し、匿名状態で電子黒板に映す。  ・活動の結果を踏まえながら、3年間一緒にいても、まだ互いに知らない側面がたくさんあることを伝	・授業支援クラウドアプリで作成したワークシートを一人一台端末に配布する。  ・集約した回答を電子黒板に映す。

		える。	
展開 20分	・教科書本文を読み、相互理解や他者の個性・立場の尊重について考える。	・教科書本文を範読し、その内容を板書に整理する。	
まとめ 5分	・授業の感想、振り返りを書く。	・授業の感想、振り返りを書かせる。	

(授業の様子)



電子黒板に授業支援クラウド  
アプリを映した様子



生徒の様子

(生徒の反応と課題、改善を要する点)

今回は導入を工夫することにより、普段の道徳の授業と比べ、教材の主題を捉え、考えを深めることができていた。こうした丁寧な導入は、一人一台端末と電子黒板の導入によって効率よく活動を行えるようになった。ただし、一度一人一台端末を操作し始めると、次の活動への切り替えが遅くなってしまう生徒が散見されることは今後の課題である。ICTの導入によってもたらされた時間を無駄にすることのない授業を模索し続けたい。